

平成29年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
地域日本語教育コーディネーター研修 募集案内

文化庁文化部国語課

1 目的

地方公共団体、国際交流協会、地域の日本語教室等で日本語教育プログラムの編成や日本語教育プログラムの実施に必要な地域の関係機関との調整に携わっている者を対象に「地域日本語教育コーディネーター」（「5 対象者」で定める者をいう。）に必要な能力について理解を深め、その向上を図ることを目的とした研修を開催する。

具体的に以下の①～⑤の役割について、理解を深め、その能力の向上を図る。

- ①【現状把握・課題設定】 地域日本語教室の現状及び問題の把握と課題の設定
- ②【ファシリテーション】 課題解決のプロセスの可視化による活動の推進
- ③【連携（ネットワーク）】 組織内外との調整や地域・組織・人の力をつなぐことによる協働の推進
- ④【リソースの把握・活用】 日本語教育のリソースの把握と課題に応じた適切な活用
- ⑤【方法の開発】 「生活者としての外国人」に適した日本語教育の方法の開発

2 主催

文化庁

3 開催地

東日本地域1か所（東京）、西日本地域1か所（大阪）の計2か所

4 研修期間

いずれの地域も3日間。具体的には以下のとおり。

	東日本地域（東京）	西日本地域（大阪）
研修Ⅰ	【研修期間】 平成29年10月17日（火） ～10月18日（水） 【研修場所】 文部科学省（予定）	【研修期間】 平成29年10月12日（木） ～10月13日（金） 【研修場所】 大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室
実践活動期間	平成29年10月～平成30年2月	平成29年10月～平成30年2月
研修Ⅱ	【研修期間】 平成30年2月28日（水） 【研修場所】 文部科学省（予定）	【研修期間】 平成30年2月23日（金） 【研修場所】 大阪市立総合生涯学習センター 第1研修室

文部科学省…東京都千代田区霞が関3-2-2

大阪市立総合生涯学習センター…大阪府大阪市北区梅田1-2-2-500 大阪駅前第2ビル5階

5 対象者

次のいずれかに該当する者で、地域日本語教育に関する経験を3年以上有し、地方公共団体（都道府県及び市町村（教育委員会を含む））、国際交流協会又は社会福祉協議会が推薦する者

- (1) 地方公共団体、国際交流協会、地域の日本語教室等で日本語教育プログラムの編成に携わっている者
- (2) 日本語教育プログラムの実施に必要な地域の関係機関との調整に携わっている者

※ここで言う「国際交流協会」とは、①地方公共団体が設立した、②地方公共団体が事務局を務める、③地方公共団体から補助金等を受けている、④地方公共団体の施設の指定管理業務を行う法人及び団体のいずれかに該当し、かつ地域における国際交流、多文化共生、外国人支援等に関する事業を行うものを指す。

※「4 研修期間」で示している研修Ⅰ、Ⅱの計3日間全ての日程を受講可能な者のみとする。

※平成22～28年度「地域日本語教育コーディネーター研修」を受講していない者とする。

6 定員

いずれの地域も原則として20名

（本研修の目的等を考慮の上、選考を行う。）

7 内容

別紙のとおり

8 経費負担

本研修の受講は無料とするが、研修受講に要する旅費、滞在費等は受講者の負担とする。

9 受講申込み

受講申込みは、個人ではなく、上記5に示した推薦団体ごとに受講申込書（様式1）を作成して、メール及び郵送により下記までお申し込みください。その際、必ず、開催日程を御確認の上、東日本（東京）、西日本（大阪）のどちらへの参加を希望されるか明記してください。

締切りは平成29年9月1日（金）必着です。なお、受講可否については、9月12日（火）以降、通知する予定です。

応募時に記載いただいた個人情報は、本研修実施のためにのみ利用します。

10 その他

- ・日程の細部は事情により変更になる場合があります。
- ・受講者は研修初日の午前10：00から10：30の間に受付へお越しください。
- ・本研修の受講者には、研修受講による成果や受講後の取組について、文化庁主催の日本語教育大会や翌年度の地域日本語教育コーディネーター研修で御発表いただくことがあります。また、各地域において文化庁の「生活者としての外国人」のための日本語教育事業を受託し、日本語教育に取り組む地方公共団体や機関・団体への協力をお願いすることがあります。

11 問合せ・申込先

文化庁文化語部国語課 日本語教育専門職 北村、増田

〒100-8959 東京都千代田区霞が関3-2-2

TEL 03-5253-4111（内線2644）

FAX 03-6734-3818

E-mail nihongo@mext.go.jp

(別紙)

●日程

研修Ⅰ 【西日本地域】 10月12日(木) 【東日本地域】 10月17日(火)

10:00	10:30	11:45	12:45	14:45	15:00	17:00
受付	オリエンテーション	昼食・休憩	実践事例報告	休憩	演習①	

【西日本地域】 10月13日(金) 【東日本地域】 10月18日(水)

10:00	12:00	13:00	15:00	15:10	16:00	17:00
	演習②	昼食・休憩	演習③	休憩	実践に向けて	ふりかえり

研修Ⅱ 【西日本地域】 2月23日(金) 【東日本地域】 2月28日(水)

10:00	10:30	12:00	13:00	15:00	15:15	17:00
受付	実践活動発表	昼食・休憩	実践活動発表	休憩	全体ふりかえり	

●内容

項目(時間)	内 容
■研修Ⅰ 【西日本地域】平成29年10月12日(木)・10月13日(金) 【東日本地域】平成29年10月17日(火)・10月18日(水)	
オリエンテーション (1.5時間)	本研修のねらいと内容について理解するとともに、文化審議会国語分科会日本語教育小委員会における審議を踏まえ地域日本語教育コーディネーターに求められること及び施策等について説明を受ける。
実践報告 (2時間)	各地の地域日本語教育コーディネーターから、それぞれの地域の日本語教育における現状と課題や、コーディネーターとしての取組について事例報告を受ける。
演習① (2時間)	講義・実践報告を踏まえて地域日本語教育コーディネーターの役割について整理する。また、参加者同士で所属団体や地域における現状と課題について情報交換を行うことによって、以後の演習に資する課題の共有や関係作りを行う。
演習② (2時間)	それぞれの地域の日本語教育における解決すべき課題を明確化するための観点と、課題解決のためのリソースや方法の概要について整理する。
演習③ (2時間)	グループ毎に課題解決に向けた今後の発展的なプランづくりのシミュレーションを行う。
実践に向けて (1時間)	これまでの研修内容を踏まえ、各自の実践活動の課題を設定し、効果的な実践活動の進め方について検討する。
ふりかえり (1時間)	研修Ⅰ全体のふりかえりを行う。
■実践活動 【西日本地域】【東日本地域】平成29年10月～平成30年2月	
実践活動	研修Ⅰで設定した実践課題について研修担当講師からのコメント・助言を受けた上で、それぞれの参加者が関わっている地域において課題に取り組む。実践活動の成果・課題等について整理し、研修Ⅱで発表を行うための準備をする。
■研修Ⅱ 【西日本地域】平成30年2月23日(金) 【東日本地域】平成30年2月28日(水)	
実践活動発表 (3.5時間)	平成29年10月から平成30年2月までに行った実践活動の成果を発表し、相互に学ぶ。
全体ふりかえり (2時間)	研修Ⅰ、実践活動、研修Ⅱを通して学んだコーディネーターに必要な能力について理解を深める。

●講師（五十音順，敬称略）

【西日本地域】

- ・犬飼康弘（公益財団法人ひろしま国際センター）
- ・新庄あいみ（大阪大学）
- ・中東靖恵（岡山大学）

【東日本地域】

- ・菊池哲佳（多文化社会専門職機構認定 多文化社会コーディネーター・公益財団法人仙台観光国際協会）
- ・土井佳彦（特定非営利活動法人多文化共生リソースセンター東海）
- ・ヤン・ジョンヨン（群馬県立女子大学）

●事例報告者（発表順，敬称略）

【西日本地域】

- ・北御門織絵（佐賀県地域交流部国際課）
「佐賀県地域日本語教育事業における多文化共生の化学反応
～佐賀県国際化ビジョンにおける地域日本語教育コーディネーターとの連携を中心に～」
- ・村上百合香（一般財団法人熊本市国際交流振興事業団）
「空白地域における地域日本語教室開催～熊本地震後の日本語教室再開を目指して～」
- ・遊亀美枝（徳島県美波町委嘱地域コーディネーター，美波多文化共生ネットワーク「ハーモニー」）
「徳島県美波町における日本語教室開設に向けての取組
～地域日本語教育スタートアッププログラムを活用して～」

【東日本地域】

- ・近藤徳明（公益財団法人京都府国際センター）
「地域と連携・協働した日本語教育体制整備について
～都道府県協会における広域連携の事業展開～」
- ・嘉山澄（公益財団法人新宿未来創造財団）
「ニーズ調査からの実践への取組～初期日本語学習者への取組に焦点を当てて～」
- ・前田啓子（にほんご広場なんと）
「学習者の地域社会への参加可能性を広げよう～任意団体ができる関係機関との連携～」